

音で聴く国際関係論 グローバル化と音楽

2009.12.8 (火)

18:20 開演 (18:00 開場)

東京大学駒場 I キャンパス

コミュニケーションプラザ 2階 音楽実習室

◆講演 *Globalization and Music*

講演者：半澤 朝彦 (明治学院大学国際学部准教授)

近代から現代にかけて、国際関係においては、国民国家・ナショナリズムの勃興と、標準化・均質化といった意味でのグローバル化は、同時並行で進行しました。

民族や時代のアイデンティティ形成に重要な役割を果たした「音」を切り口にすると、これら二つの矛盾するベクトルのあり様がよりよく見えます。普段あまり意識していなくても、聴けばただちに何ものかを体感できる、具体的な力が音楽にはあります。

国際システムと人間の感性は、実は不可分の関係にあるのです。(講演者より)

Performers

廣瀬 麻名 (violin)

竹内 弦 (violin)

山本 法子 (viola)

半澤 朝彦 (cello)

Program

◆シューベルト

弦楽四重奏曲第12番ハ短調「四重奏断章」

◆ストラヴィンスキー

弦楽四重奏のための3つの小品

◆ベートーヴェン

弦楽四重奏曲第4番ハ短調 作品18-4

※本イベントは無料です。学外の方にもご参加頂けます。事前申し込みは不要です。

主催：東京大学教養学部附属教養教育開発機構



◆演奏者紹介

廣瀬 麻名 ひろせ・まな (violin)

3歳でヴァイオリンを始める。東京藝術大学付属高校から同大学音楽学部に進み、現在、同大学院博士課程3年に在学。1992年、1993年、全日本学生音楽コンクール名古屋大会小学校の部第1位。1994年、同コンクール中学校の部第1位。1999年日本演奏家コンクール高校の部最高位。2000年YBP国際音楽コンクール高校の部第1位。川崎雅夫、ブレン・ゴラー、ノーヴァート・ブレニン、イヴリー・ギトリスのマスタークラスで演奏。これまでに、佐々木はるる、塚原るり子、清水高師に師事。大学院では、アメリカの作曲家、チャールズ・アイヴスの研究も行っている。岐阜県出身。

竹内 弦 たけうち・げん (violin)

東京藝術大学音楽学部を卒業し、同大学院修士課程に在学。旧奏楽堂・木曜コンサート、芸大ラヴェル・プロジェクト、芸大室内楽定期演奏会などに出演。原村室内楽セミナー、クフモ音楽祭(フィンランド)、シモン・ゴールドベルグ記念セミナー等でも演奏した。ヴァイオリンを藤野妙子、服部芳子、原谷百代、岡山潔、松原勝也に師事。現代音楽団体、Ensemble Bois メンバーその他、オーケストラ、ソロ、室内楽奏者として幅広く活躍中。香川県出身。

山本 法子 やまもと・のりこ (viola)

4歳でヴァイオリンを始め、14歳でヴィオラに転向。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学音楽学部を経て、同大学院修士課程終了。ポーランド国際音楽祭マスタークラスで演奏。ヴァイオリンを蓬田清重、鈴木裕子、ヴィオラを中塚良昭、大野かおる、クロード・ルローンに師事。現在、オーケストラや室内楽などで活躍中。2009年9月、スペインのヴィットリオ・ガステイス音楽祭にて、レオ・デ・ネーヴェに師事。

半澤 朝彦 はんざわ・あさひこ (cello)

京都フランス音楽アカデミー、霧島国際音楽祭、長野アスペン音楽祭、パリ・シャトー・ドゥ・シャン音楽祭などに選抜され、堤剛(インディアナ大学)、F. ミュレール(パリ国立音楽院)、コリン・カー(英国王立アカデミー)、H. シャピロ(ジュリアード音楽院)らの国際マスタークラスでたびたび演奏。欧州留学中、巨匠アンドレ・ナヴァラの高弟でパリ・エコールノルマル音楽院教授のG. トゥリエールの下で6年間にわたって研鑽を積んだ。クライスト・チャーチ祝祭交響楽団、マートンカレッジ・バロック・オーケストラほかの首席チェロ奏者を務め、数多くの独奏会、室内楽演奏会で好評を博す。2006年より明治学院大学国際学部准教授(国際関係史)。現在、チェロ・室内楽を毛利伯郎に師事。